

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

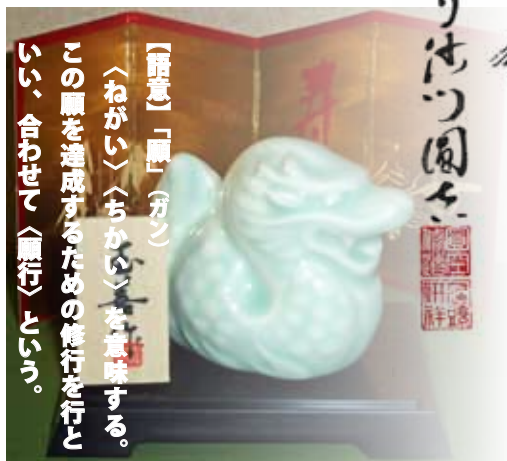
<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

第339号
平成24年1月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



【語意】「願」(ガン)
〈わがい〉〈ちかい〉を意味する。
この願を達成するための修行を行と
いひ、合わせて〈願行〉という。

願
なまの寺
なまの寺
なまの寺

願



目先の楽しみ
自分だけの楽しみ
それは欲望
小さき幸福

利他の楽しみ
共に喜び合う楽しみ
これぞ誓願
大いなる幸福

小さきは捨て
大なるものを求めよ

青年そして壮年
熟年そして老年
年に相応
身の丈に合う
誓願を持つべし

他の喜びを
我が喜びとする
誓願を抱けば
必ずや大楽を得ん

誓願を立てる

私どもには、「こうしたい」「あなりたい」といった願望が、誰にでもあるかと思えます。しかし、その多くは欲望を満たすためのもので、仮になつたとしても、すぐさらなる欲望が出てきて、その充足感は一時的なもので終わってしまいます。それは、いわば小さな幸福の追求の繰り返しに過ぎないといわねばなりません。

一方、人間ですから、当然のこととして、我欲を満たしたいという心があるにしても、自分が願う、そして行ったことが、他の人を喜ばせ、社会にながしか貢献出来たとしたら、それはとても嬉しく、大きな幸福が得られるものです。私事で恐縮ですが、梵字フォントなるものを、自分のインターネット上のホームページに公開し

ています。たとえば「**バシヤカ**」のような文字をワープロ等で表記できるソフトです。梵字は特殊な文字で、市販のものもなかったもので、自作して無料で公開したわけです。そうしたら、学芸員・作家・漫画家・出版社・仏具関係者等中には、刺青師いれずみのような方からも礼状が届き、驚かされたりもしましたが、少しは役に立っていると思つと嬉しいものです。

これなぞは、ほんの些細なことでお恥ずかしい限りですが、世の中には、世のため人のため、骨身を惜しまず、私財をなげうって、大きな仕事を成し遂げられる方がおられます。仏教では、そのようなことを行いたいという願いを誓願せがんといい、そのような行いのことを菩薩行ぼさつぎょうといひます。

そこで、二人の生身の人間であ

りながら、菩薩と呼ぶにふさわしい人を紹介し、随喜させていただくことにいたしました。先ずは、**行基**です。『ブリタニカ』には、概略次のように紹介されています。

奈良時代の僧(668〜749)。

諸国を遊歴して自行化じぎょうけだ他に励み、これに従うものは千人をこえたという。弟子を連れて各所に橋を造り、堤つみを築いた。瀬戸内海に五泊ごはまり(五カ所の港)を開いたのもその一例である。各地に布施屋(無料宿泊所)をつくり、摂津に田百五十町を開墾し、さらに各地に道場(僧尼院)を建て、畿内にあるものだけでも49カ所に及んだ(四十九院)。このような宗教活動は、朝廷によってきびしい弾圧が加えられた。しかし、朝廷は彼らの勢力を無視することができず、

融和策をとることになった。さらに聖武天皇の東大寺大仏造宮に際しては、絶大な民衆への影響力により、大仏造宮費の勸進に起用され、それまで前例のない大僧正に任じられ、宗教上の最高の地位に立った。彼にまつわる多くの靈驗譚が伝えられ、また当時の人々は、彼を行基菩薩と称したという。最古の日本全図は、彼が作ったと伝えられる。

以上ですが、どこからそのような大きな力が生まれたか不思議ですが、調べてみて納得がいきました。行基の師匠は道昭という方で、遣唐使の一員として入唐し、あの『西遊記』のモデルとなった玄奘三蔵に教えを受けたといい、日本に多くの経典類を持ち帰り、晩年には社会事業に腐心されたといえます。なるほど、行基の誓願は、

筋金入りだったというわけです。次いで紹介するのは、沼田恵範（1897～1994）です。

彼は、世界平和のためには仏教を弘めることこそ必要と考え、その資金を生み出すために、三豊製作所（現・ミットヨ）というマイクロメーターの会社を創業したという、異色の方であります。苦勞の末事業を軌道に乗せ、**仏教伝道協会**を創設し、各国語に翻訳した『**仏教聖典**』を、世界中のホテルに頒布し、これまでに世界56ヶ国一万施設以上、総数は七百万部にものぼるとか。また、『大蔵

經』の英訳を發願、**仏教伝道文化賞**の設立、米国内各都市に**仏教寺院**を開設、**バークレー仏教翻訳センター**の開設や**ハーバード大学**など主要大学に**仏教講座**を開講、**ドイツデュッセルドルフ「恵光」**日本

文化センターの建設、**龍谷大学**、**武蔵野大学**に**沼田奨学金**を開設するなど、国内外の**仏教普及・仏教徒交流**に多大な業績を残されました。これらの活動は、氏亡き後、現在も進行中であります。

ここで、『法句經』二九〇番を味わってみましょう。

ささやかなる

たのしみを棄てて

若し 大きなる

たのしみを得んとせば

かしこき人は

彼岸の大楽をのぞみて

小さきたのしみを

すてさるべし（友松圓諦訳）

紹介した二人の誓願は、正にこの教えの実践でありました。我々、これらのまねは無理として、年相応、身の丈に合った誓願を立て、その実行を心掛けたいものです。

平成二十四年度年回表

・ 一周忌	平成二十三年	・ 二十三回忌	平成二年
・ 三回忌	平成二十二年	・ 二十七回忌	昭和六十一年
・ 七回忌	平成十八年	・ 三十三回忌	昭和五十五年
・ 十三回忌	平成十二年	・ 三十七回忌	昭和五十一年
・ 十七回忌	平成八年	・ 四十三回忌	昭和四十五年
		・ 四十七回忌	昭和四十一年
		・ 五十回忌	昭和三十八年

◎上方いろはかるた

「いろは歌」は、仮名の手習いの手本や、「いろはかるた」として親しまれた。

「いろはかるた」は江戸時代にこゝろとわざや格言をかるたに仕立てたもので、「上方いろはかるた」のほゝうが歴史が古い。また、関西と関東で共通する札は、ほんの数えるぐらゝいしか存在しない。

「上方いろはかるた」に登場する仏教に関連のあることわざは……。

「仏の顔も三度」

「下手の長談義」

「地獄の沙汰も金次第」

「鯛の頭も信心から」

「寺から里に」——本末転倒のたとえ。

「幽霊に浜風」——元気がない、迫力がないこと。

◎江戸いろはかるた

「江戸いろはかるた」は「犬もあけるけば棒に当たる」で始まることから、「犬棒いろはかるた」とも呼ばれる。ここに登場する仏教に関連のあることわざ、格言は次のとおり。

「瑠璃も玻璃も照らせば光る」——

ともに「七宝」の一つで、瑠璃は紺色、玻璃は白い宝石（水晶とも）。物は違つてもすぐれた人は光をあてればともに輝くという意味に。

「律儀者の子だくさん」

「楽あれば苦あり」

「鬼に金棒」

「子は三界の首魁」

「聞いて極楽見て地獄」

「知らぬが仏」

「縁は異なるもの」

「門前の小僧習わぬ経を読む」

雑記



▼年頭ご挨拶

旧年中は、大変お世話になりました。本年も何卒宜しく。檀家各位におかれましては、家内安全・家運隆盛を祈念申し上げます。

◆元朝や南無あみだ佛阿弥陀佛 沐魚